

日本佛教学会第 92 回発表要旨

題目：病者に向き合う仏教者の養成—龍谷大学「臨床宗教師研修」における試み—

龍谷大学 打本弘祐

【発表要旨】

過去から現在に至るまで、仏教者や仏教教団が病というものに向き合い、いかに病者の不安に関わってきたのかを考えると、三つの役割があると指摘されている。原始仏典には、医学や薬学の知識による治療法や生活規則による看病法などが記され、医療的役割を担っていたことが確認できる。また、仏・菩薩の助力を借りて疫病退散を祈念し、病を調伏するあり方があった。特に近年では仏教者が病者の苦悩を聞き、その苦が少しでも変化するようなあり方に期待が寄せられている。

これまで発表者も医療や高齢者福祉の臨床で三つ目の役割を担い、現在では龍谷大学大学院実践真宗学研究科「臨床宗教師・臨床傾聴士研修」（以下、龍谷大学「臨床宗教師研修」）に携わっている。今回は、研修を代表する立場にはないものの、龍谷大学「臨床宗教師研修」を病者の苦悩に向き合う仏教者の養成として捉え、約一〇年にわたる研修の歩みと変化にともなう試みを報告する。

そもそも臨床宗教師は、故・岡部健医師によって欧米で活躍するチャプレンの日本版として命名された。現在では、医療機関をはじめ福祉施設や被災地などの公共空間で活動している。臨床宗教師の養成は、東日本大震災を契機に東北大学大学院文学研究科実践宗教学寄附講座によって 2012 年度から始まった。2018 年 3 月から日本臨床宗教師会によって資格制度化され、同会による教育プログラム認定機関として、複数の仏教系大学や上智大学など計 8 団体が各々の特色を活かした研修を実施している（2023 年 8 月現在）。

龍谷大学は、東北大学に続いて 2014 年度より「臨床宗教師研修」を開始した。迅速な開設の背景には、東北大学の協力はもちろん、同研究科が設置当時より多様化する社会的課題に対応する宗教的実践者育成を重視していたことなどが挙げられる。

龍谷大学「臨床宗教師研修」では、理論（座学）と臨床実習、実習指導（グループワークや個人面談）の三つを柱として、開設当時から東北大学の「臨床宗教師研修のねらい」に準拠したスピリチュアルケアおよび宗教的ケアや宗教協力などの能力向上、関係諸機関との連携方法などの「具体的目標」が設定された。その後、新たに「理論と臨床の統合」が「具体的目標」に加わり、臨床牧会教育（CPE）の手法に倣ったグループワークによる実習指導が明確に打ち出された。

この変化にともなう一つの試みとして、発表者が担当する生育歴の語りのグループワークを取り上げる。守秘義務のもと教育的に構成されたグループの中で、受講生が苦悩を背負いながら歩んできた人生を生々しく自己開示する時間は一つの臨床現場となる。そこでは、ケアを受けることを通してケアを体験的に学ぶ。ケア技法の習熟以上に、生育歴にもとづく今の自己課題に気づき自己受容するプロセスを経て、病者に向き合う姿勢が磨かれていくことを論じる予定である。

【キーワード】 臨床宗教師研修 臨床牧会教育 生育歴